

## 行政の「土台」を創る

行政管理局副管理官(行政通則法担当) 駒崎 弘

### 経歴

Hiroshi Komazaki

平成19年4月 総務省採用  
同 自治税務局企画課  
平成19年8月 茨城県総務部市町村課  
平成20年4月 同 総務部財政課  
平成21年4月 総務省人事・恩給局退職手当第一係  
平成22年7月 同 人事・恩給局退職手当審査係長  
平成23年7月 国家公務員制度改革推進本部事務局主査  
平成25年6月 現職

程の中で、各省を横断する制度を通じ、各省の個別分野の実態を知ることができるなど、新たな発見に満ちた面白いフィールドです。総務省では、若手のうちから、このような制度設計の仕事に巡り会うことができます。

### 異なる環境で見えたもの

地方公共団体に出身する機会もあります。私は、入省したばかりの約2年間、茨城県庁に赴任しました。知人のいない地に移り住んで未知の仕事をするのは初めての経験でしたが、県内各地の実地調査や県の予算査定をする中で、周りの方々に助けられながら、地方の現場で制度がどのように運用されているかを知り、多くの人から仕事のイロハを教わりました。また、地方公共団体の仕事の内容や方法は霞が関のそれと異なる部分もありますが、霞が関で働く中で、仕事に対する姿勢は同じであることにも気づかされました。「来たものは受け止めて全力で返す」。当時の上司から頂いた言葉ですが、今振り返れば、行政官としての基礎を教えてもらっていたのでした。今は、少しでもその言葉に近づくことができるよう、日々自省しながら業務に取り組んでいます。

### この国の「土台」に興味があるあなたへ

総務省では、時代のニーズに合わせて行政の在り方を模索する、いわば行政の「土台」を創る仕事に携われます。一見地味ですが、その「土台」が安定しなければ、国民が真に安心して暮らせる社会にはなりません。国のあらゆる施策に通じるという意味で広がりがあり、責任の重い仕事ですが、それだけに何にも代え難い達成感を得られます。そして、様々な環境に身を置くことで、周囲の助けを借りながら成長していくことができます。

国の「土台」となる制度の設計に取り組みながら、自分の成長を積み重ねていく。この総務省という場で、是非一緒に働いてみませんか。



### 経歴

Yuna Shirakura

平成24年4月 総務省採用  
同 行政評価局総務課(総括係)  
平成25年6月 同 大臣官房総務課(審査・調整第一係)  
平成26年7月 現職

## 「当たり前」を見つめ直す

行政管理局行政情報システム企画課総括係長 白倉 侑奈

### 公務員の仕事って？

毎日机に向かって流れてくるルーティンワークの対応をする。。。公務員という、このようなイメージを持つ方も多いのではないのでしょうか。実際には、刻々と変化する行政への要望を受け、日々の業務を効率的に行い、どうしたら国民のために自分が生み出す成果を最大限にできるかを考える毎日です。私は、3年目にして幸運にも、昨年までまさに担当していた業務のやり方を見直す仕事に関わっているので、その様子を御紹介します。

### 日々の業務を見つめ直す

私は昨年まで大臣官房総務課という部署で、総務省から提出される法案についてとりまとめる業務にあたっていました。例えば、法令が国会に提出されるにあたって不可欠な審査を受けるために、内閣法制局と各局の法令担当者との間に入って調整をしたり、法令審査の際に必要な資料(法案関連の資料は独特な言い回しがされ、慣れるまでは作成に手間や時間が掛かります。)を作成する際に各局へのアドバイスをしたり、といった業務です。時には、審査用の資料をまとめて目次をつけるような、単純作業とも言えるような仕事に多くの時間や労力を割くこともありましたが、当時は、このような業務が、法律の内容を考える各局の法令担当者と比して、とりまとめの自分に与えられた役割ととらえ、あまり疑問を持つこともなく取り組んでいました。

異動を控えた昨年6月、女性国家公務員の働き方改善を求めた提言が有志の女性官僚から内閣人事局長の加藤官房副長官に対して提出されました。これを受け、国家公務員にとって負担の大きな業務の改善が求められることとなり、私が昨年担当していたような法令関係の業務も対象となりました。そこで、私の現在の部署でも、全府省が使用するシステムを整備・運営する立場として、システム面での支援をすることとなり、たとえば上記のような法令審査関連の資料の自動作成等の機能を持ったシステムの構築を目指すこととなりました。現在、各府省の法令担当者とは会議やヒアリングを重ね、システムに求められる機能や、各府省に御協力をいただく作業などを検討・調整しています。

### 改善に結びつけるために

このシステムに限った話ではではありませんが、システムの構築だけをもって法令執務全体が効率化される訳ではありません。システムは、単純作業を効率化することはできますが、使う側がそのシステムの機能や利便性を理解し、今後の業務全体のために産みの苦しみを惜みず、普段の業務プロセスを見直すということがどうしても必要になります。それから、そもそも使う側のニーズに沿った使い勝手のいいシステムを構築するということが不可欠です。そのため、今行っている各府省への徹底したヒアリングや、審査を始めとする法制執務全体が合理化されなければ、その本来の機能を発揮することはできないでしょう。このシステムが期待されたとおりの機能を発揮すれば、霞が関で多くの職員の残業を生みだしていた法令執務は効率化され、霞が関の働き方を変えと言っても過言ではありません。そのような重要なシステムに対して、昨年担当していた私だからこそ、周囲が気づかないことに気づいたり、役立つ意見を言えたりするはず、と毎日やりがいを感じ、業務に当たっています。

今やっている業務の意義を考え、より多くの成果を生み出すために自分が採るべき方策を考える、公務員の世界に限らず当たり前のことです。国家公務員として働きながら、日々の業務を見つめ、課題があれば改革するツールを持っている、それが総務省だと思います。限られた国家公務員という人員が限られた時間と労力をフル活用して、国民のために政策を行う。その際にみんなが通る、膨大な事務処理を効率化できるとしたら、国民や国の行政の在り方に与える影響は決して小さなものではないはずです。

こういった考えにピンとくる方、ぜひ総務省の説明会に足を運んでもっと総務省の業務や職員、その考え方に触れてください。御自身と公務員という職業をつなぐヒントがみえてくると思います。



総務省は駅伝部、カレー部など部活動もさかんです！



国際会議に出席しオランダ代表と